



発行 2022年9月1日

9 月 第247号

奈良・人と自然の会



<涼しい木陰で一休み>



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます
URL <http://www.naranature.com>



ならやまプロジェクト	1	海外ボランティア活動体験記—3	9
Monthly Repo ならやま	2	字遊字感	10
里山の今 (果樹・里山)	3	病虫害講座	11
里山で遊ぼう①レポ	4	新ならやま投句箱	12
夏季研修旅行 (高野山一泊) レポ	5	行事案内	13
自然観察会 (燕の埧入り) レポ	6	仲間入りしました・赤トンボ	14
私の健康法	7・8	幹事会報告・編集後記	15

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

コロナ禍第7波はなかなかピークアウトしない。医療の逼迫懸念はあるものの、社会はもはや恐れてもしかたがないと受け止めているように見える。一方、猛暑も続く中で、今しばらくは夏時間での活動として、ようやく小さな秋も感じられ、一日活動に戻ることも考えられるようになってきた。コロナと暑さのせいもあり、活動参加者は少し減少している。早くみんなが気楽に参加できる環境に戻ることを願う。

処暑も過ぎ、ほっとする季節がくるのが待ち遠しいが、そんなときの気のゆるみにも注意が必要だ。7月8月に引き続き、イベントが予定されている。自分たちの活動はもとより、子どもたちを迎えて、安全には十分に気をつけなければならない。雑草との闘いのピークもあと少し、みんなで力をあわせて乗り切りたい。クビアカツヤカミキリ対策として、対象と考えられる桜、桃、ウメなどをチェックした結果、現在のところ被害木は見つからなかった。今後も年に一度は点検していくこととしている。

9月の活動特記事項

協働活動：9月1日(木) アダプトプログラム

わくわくドキドキ里山を歩こう②：9月17日(土)(降雨確率50%以上9月24日(土)に順延)

9月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備、薪割り、下草刈り、イベント準備 ユート：アカマツの森でのマツの間伐
エコファーム	各種野菜畑作り 冬野菜種まき(千都大根、丸大根、こかぶ、大和マナ、菜花、ホウレンソウ、水菜、日野菜、レタスなど) 里芋、さつま芋除草、ビニールハウス修理
景観	整備：彩の森・BC周辺、養蜂巣箱の整備 ビオ：西池改修、水路・木道整備、水生生物調査 花：山野草園草取り
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備(階段、ロープ他)、笹草刈り、樹木銘板作り、イベント準備
果樹	実りの森除草、イチジク、クリの収穫、ウメの剪定、防草シート施工

活動日：毎週木曜日 8:30~12:45(7月7日から当面の間、暑さ対策として)

前日水曜日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日でも同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

富井 忠雄

7月21日(木) 晴れ 65名+近大生3名

久しぶりに晴れの活動日になったが、コロナ感染拡大のせいか参加者が少ない。鈴木さんから第一回田植えの参加者の水上先生の話があった。奈良県景観自然環境課清水係長が来訪。里山GはNo.3,9区画の里山林整備、藤棚用丸太材準備や薪割りを行う。ユートピアクラブは赤松の間伐など。景観GはBC周辺の草刈りとイベントの準備。花班はアジサイの剪定と草取り。ビオ班は西池水生生物調査とペタキンの定期調査、環境調査を行い、西池の水深が浅く、いずれ改良すべきとの報告があった。パトロールGは1コースパトロール、観察路草刈り。果樹Gは、実りの森の除草と果樹の剪定などを行う。

7月23日(土) 晴れ 親子23+スタッフ30



雨のため
順延となったイベント
「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！

①」を奈良県「山と川の月間」イベントとしてGreen Gift 地球元気プログラムの共催にて実施した。

7月28日(木) 晴れ 63名

猛暑のため熱中症に気をつけていたが、気分が悪くなった人が2名出た。休憩の実施、また手当などを行った。里山GはNo.9区画の里山林内整備、学びの森の笹刈り、薪割りなどを行う。エコGは水田の除草とヨシの敷設、各畑の除草、ピーマンなどの収穫。景観GはBC周辺、梅林の草刈り。花班は茗荷採集と整備、アジサイ園の草引きなど。パトロール班は2コースパトロールと草刈り、エントランス花壇草刈りと

藤棚作り。果樹Gは実りの森の除草、果樹の剪定、防草シートの試行などを行う。

8月4日(木) 曇り 56名+実習生1名

雨模様で参加者が少なかった。数名でアダプトプログラムを実施し、自転車道周辺を掃除した。10時から佐保台小関係者3名が来訪し、9月17日のイベントについて打合せを行った。里山GはNo.9の里山林内での伐採、枝葉の処理、遊びの森周辺草刈りを行う。エコGはナス畑、水田の除草、じゃがいも跡地の整備、ナスなどの収穫、販売を行う。景観Gは彩の森草刈り、自転車道の竹笹などの除草。花班は山野草園の草引きなど。ビオ班はビオエリアの草刈り、樹木の剪定、西池の橋の付け替えを行う。パトロールGは3コースパトロール、観察路のクビアカの調査、藤棚作りなど。果樹Gは実りの森除草、グミと梅の剪定などを実施。

8月18日(木) 雨のため活動は翌日に延期

近大北川先生以下5名とビオ班の田中さんがタナゴ池などの田貝の育種状況調査を行う。

8月19日(金) 晴れ 43名+見学者1名



雨天代替日
でもあり、参加者が少なかった。来週のイベントの打合せを行った。里

山Gは里山林内整備と枝葉の処理、薪棚周り草刈り。エコGは水田、畑の草刈り、ナスなどの野菜の収穫。景観Gは彩の森、BC周辺の草刈り。花班は山野草園の草引きなど。ビオ班は西池の水生生物調査、ビオエリアの除草、第一駐車場西水路の草刈り。パトロールGは観察路点検、エントランス広場の草刈りなど。果樹Gは、梅林と実りの森のクビアカの調査と除草などを行う。

果樹グループ



里山グループ

◆土ごと発酵2

有元 康人

以前の投稿で、土ごと発酵試験の取り組みを紹介しました。

実りの森の斜面に生えている、ササの根茎を土ごと発酵分解し退治する方法です。

3月25日に、植村牧場に協力を仰ぎ、斜面にトラック2台分の牛糞を撒きました。

臭気が気になりましたが、思ったほどの悪臭は感じられず、近隣からの苦情もなく試験が進みました。

4月に入ると、牛糞の周りはササが生えてきましたが、牛糞の下のササは確認できません。



3か月後の状況

この結果で、斜面全体に牛糞を入れたいのですが、思わぬことが起きてしまいました。

植村牧場の、牛糞運搬車が、地盤が緩いため、堆肥を下した後でも車輪が空転し、脱出が難しい状況になりました。

その周りはさらに地盤が緩く、改良が必要になります。

地盤改良のためには、砂利の敷き詰め等が必要になり、費用対効果を考え、果樹グループでは、当分の間この取り組みは断念します。

ただし、ササ対策の効果は確認できたので、他の場所での取り組みをしていただければと思っています。

◆グループリーダーをお受けして

山本 隆造

うだるような暑さが続いています。今年は特に暑さが厳しいのか、年を重ねたせいなのか、一段とこたえるような気がします。趣味の山登りで涼しさを味わってきました。立山浄土山から雲海越しの劔岳です。涼しさを感じていただければ幸いです。



思いもかけない形で里山グループのリーダーをお受けして2カ月余りが経ちました。会の幹事役も今年就いたばかりであり、慣れない役目に戸惑いながらの日々です。改めて平田リーダーの存在が大きかったことを痛感しています。

実はこの春先、役員改選を前に平田さんから「次期リーダーを引き受けてほしい」との打診がありました。私は大阪堺から遠距離の参加に加え、家庭の事情（妻と高齢の母の三人暮らしで、今のところ重度ではないものの母の介護が必要）もあり、無理を言って平田さんに続投をお願いした経緯があります。

何分力不足であり時間的制約もある中、みなさんのお力添えをいただきながら、役割を果たしていきたいと考えております。

さて、里山グループでは今年度の重点作業として30区画に区分した里山林を、区画ごとに整備する作業を進めております。西側里山林入口（JR側）から観察路を少し入ったあたりは、なら枯れ対応やその後の倒木処理等のため7～8年手入れができておらず、常緑樹、特にソヨゴが高さ10m強、幹の直径20cm近くにも成長し、枝を広げ森全体が暗く感じられます。ソヨゴを中心に間伐し、広葉樹の成長を促し明るい森づくりを目指して順次整備を進めています。

「夏だ！ 休みだ！ 里山で遊ぼう！ ①」

レポ

尾崎 信次

7月23日(土)「夏だ！ 休みだ！ 里山で遊ぼう！ ①」を開催した。奈良県主催の「山と川の月間」の協賛イベントと Green Gift 地球元気プログラムの正式イベントも兼ねている。

本来は7月16日の予定だったが、悪天候のため1週間順延となり、参加者は児童10名、父兄13名、スタッフは30名での実施となった。

午前8時前にスタッフが集結した。GG 横断幕、奈良・人と自然の会や奈良県の旗を立て、大型扇風機3台とそれにつなぐ発電機を設置した。そして受付台の設定等を行って準備完了。

8時半頃から到着し始めた参加者は受付で名簿確認、手の消毒、マスクを確認した。そして、ヘルメットを受け取り、班分けのテープを貼ってもらう。

9時に開会セレモニーが始まり、千載会長の挨拶、小島さんから内容説明、安全に付いての注意が行われた。全員で集合写真を撮影した後、2班に分かれて里山活動を開始した。

昆虫観察は梅林周辺で網を使って採集した虫を虫かごに入れた。蝶・トンボ・バッタ・甲虫等の種類別の数を記録。昆虫に詳しい菊川さんや木村さんに同定してもらった。

昆虫だけでなく、山から流れる小川にいる、カエルやタニシ取りに夢中になる子らもいた。



竹遊びでは、竹の伐採見学。今年と2～3年

前の竹は大きさは変わらないのに色や叩いた時の音色が違うことについて説明を受けた。

その後、ノコギリを使っての竹の輪切りの体験や、花瓶・貯金箱作りに挑戦した。



10時半から15分間の休息の後、ヘルメットを着用しての里山活動体験になった。

全員で急坂をロープを使って登坂した後、2班に分かれた。里山散策は大極殿を眺望できる所に登り、小羊歯でピョン・シダの飛行機で遊び、キノコの話を高間さんから聞いたりした。

里山遊びはロープブランコに乗ったり、木に立てかけたハシゴに登ったり、丸太渡りをして遊んだ。



ベースキャンプに戻り、会員有志が幼虫から成虫に飼育したカブトムシやクワガタを始め、竹笛・鹿の折り紙・ジュズ玉ブレスレット等、数多くのお土産を子供たちにプレゼントした後、会長の閉会の挨拶でイベントは幕を閉じた。

炎天下での活動であったが、事故も無く無事に終了することができた。

高野山月例研修会旅行報告

池田 富子

弘法大師空海が開いた真言密教の聖地高野山。その高野山への研修旅行、足が達者でない私はもう一つの目的をもって参加。というのは亡き夫を一の橋近くの赤松院に永代供養しているの、皆さんが女人道を歩いている間に赤松院で法要をしていただく予定でした。

金剛峯寺駐車場に到着後、女人道の歩き組(13人)と金剛峯寺周辺を散策する組(7人)に分かれ、私は赤松院に法要に行くと話したら、7人の方が私と一緒にお願いしますとの嬉しいお言葉。タクシーで赤松院へ。赤松院は千年続く歴史と高野山を代表する二千坪の回遊式庭園や左甚五郎作の「木彫りの虎」等、国宝級の芸術品を所蔵されている古刹です。ご住職の読経の下、主人の法要と7人の先祖供養をしていただきました。寺院の中を見学して皆さん良かったね!と寺院を後に……。寺院前の喫茶店でゆっくり一服。そろそろ歩いて帰ろうかと表に出たら、歩き組を迎えに行く生駒交通のバスが目の前に!!わーと一斉に手を挙げて便乗し、中の橋の駐車場へ。待つこと暫し!!

帰って来ました。一番青木さん(?)、続々と12人(一人落ちこぼれ?)。皆さん汗だくでお疲れさま!皆さんと合流して釈迦文院宿坊へ。食事まで時間があつたので、金剛峯寺の高野山書道競書展に行き、吉田さんの作品を鑑賞。その後、お寺も見学。充実の一日でした。

夕食後の二次会は全員参加で盛り上がりすぎ。一人沈没する度、田中さんが部屋に連れて行き、二人目、三人目、会長沈没寸前でお開き。楽しかった!

二日目も歩けない組(4人)はタクシーで奥の院御廟まで。御廟にお参り後、主人の納骨堂にもお参りできて満足。その後は皆さんと一緒に楽しい旅!!幹事さんに感謝、ありがとうございました。

巡って よかった 高野山

増田 典男

8月1日(月)、朝9時 近鉄奈良駅前「猛暑とコロナから逃避しよう」と決心した20名がバスに乗り込みました。途中昼食をいただき無事高野山に到着。人気は少なく静寂ではあるが日差しは厳しく涼しさは感じない。明治の初めまでは高野山は女人禁制、七つの入口近くに女人信者が籠れる女人堂があり険しい「女人道」をたどったとの事。大汗をかきながらその道を巡りました。信心とはすごいものです。電車・ケーブル・車で楽々いける我々とは根性が違います。「暑いなあ!宿坊で宴会や!ビールや!」ご利益あるのかなあ?南無大師遍照金剛

宿坊は「釈迦文院」、汗を流して精進料理の夕食。ほぼ黙食。その後は?自室に戻って一気に開花。オールセーフか総倒れ。詳細は省略しますが「語らい」は大事です。大吟醸旨かった。

翌日の熱心ガイド付きの奥の院口から御廟までのお墓巡りは林間学校気分。有名大名の墓(五輪塔)など20万基を超える墓碑が大師信仰の厚さをうかがわせます。徳川二代将軍秀忠の正室「お江」の墓はあまりに巨大で圧倒されました。大勢で巨石を担いで山を登ったとか。



昼食後はまず弘法大師の御母公の化身とされる弥勒菩薩を祀る女人高野「慈尊院」、119段の階段を昇って高野山へ向かう登山口に鎮座する「丹生官省符神社」、最後は真田昌幸・幸村親子を祀る「真田庵」へ、道の駅でお買い物も。

お世話下さった皆さまに感謝します。早朝の涼しさは猛暑を、すがすがしい空気はコロナをしばし忘れさせてくれました。運悪く私の隣に座られたYさん、一睡もさせず、ゴメンナサイ!

8月自然観察会報告

燕の埒入り・平城宮跡大極殿西側

富江 文雄

毎年春になると南から渡ってくるツバメは夜に集まって眠る場所を持っています。

それをツバメの埒（ねぐら）と呼びますが、平城宮跡の西側に広がるヨシ原は関西地方最大の集団ねぐらといわれています。

8月8日（月）午後5時半近鉄大和西大寺駅に集合。会員、その家族、シニア自然大学校生老若男女23人が参加しました。

天候は晴れ、日没が6時45分頃なので十分な時間があり、まだまだ暑さの厳しい中、ゆっくりと観察場所である大極殿西側に歩いて行きました。

埒入りのながれ

1. 平城宮跡にツバメが集まり始める。
2. ねぐらの上を群れになって旋回する。
3. 日没後、ねぐらに降りてくる。
4. ねぐらで鳴きかわす。（情報交換？）
5. 静かになる。（眠りにつく）

6時半頃、ぼつぼつ集まり始めるも集団化しない。6時45分頃に太陽が西に沈むと急速にツバメの数が増え始めた。



（ツバメの乱舞）

低空飛行するもの、上空を飛び回るもの、右から左から後ろから、どんどん数が増えカメラでその姿を撮影しようにも飛ぶのが早く、動き回るので焦点が合わない。

7時15分頃、あたりがかなり暗くなってきてどんどんとねぐらに降りてくる鳥の数が増えた。観察者の頭ぎりぎりを飛んでくるツバメ、中にはフンを落とす鳥もいて、見学者の間で感嘆の声があがった。



（ヨシ原を見る）

地表面はかなり暗くなっているが、上空はまだ明るさがあるのでまだしばらく鳥の旋回がみられた。

7時半にはすっかり暗くなり、鳥の声もほとんど聞こえなくなって、眠りについたものと思い我々も帰途に着いた。

一体どのくらいのツバメが集まったのか、3万？、4万？、それとも6万羽？ とても数え切れるものではないが、自然がもたらす不思議な現象に感銘を受けた。

埒入りは9月中頃まで毎日続くようです。（天候により数は変化する）。

次の自然観察会は9月12日（月）初秋の歌姫街道です。

私の健康法



羽尻 嵩

幼少から内蔵が弱く、冬になるとよく風邪を引いて寝込んでいました。高校時代には親元を離れて下宿生活が始まりましたが、肺炎などで数週間入院したことがありました。大学生になってからは大きな病気はしませんでした。精神的な面で迷路に落ち込み、仕事に就いてからもそれを引きずり、覇気のない生活が続いていました。

このような心身ともに弱点のあった私に転機が訪れたのは30歳を過ぎてからです。精神的な迷路から抜け出し、それと同時に体の弱点のケアもうまく行き始めました。

① 体のケア

お灸 …これを始めた動機は次のようなことからだったと思います。

覇気がない→内臓が弱いのも原因ではないか→大腸や肝臓の治療にはお灸をすると良いらしい→京都のおぐろす小栗栖にある鍼灸病院のお灸がよいと聞く。

ということで、その病院に行くことになった。行ってみると、何人もの方が背中を出し、指先ぐらいの大きな藻草をのせられ、順番にお灸を据えてもらっていました。

私はその大きな藻草を見て一瞬尻込みをしましたが“健康になりたい”の一心で覚悟して背中を出し、肝臓と大腸のツボ4ヶ所にお灸を据えてもらいました。帰る時、背中がホカホカしていました。

その後は自宅で、肝臓のツボ(2ヶ所)だけに絞って、1~2カ月に1回据えてもらうことにしました。お灸の痕には、ムニコウという漢方薬を和紙に塗って貼付けます。4日ほど経過すると、据えたところから老廃物の膿が出てきます。薬付きの和紙は何度か取り替えます。



結果、効果は抜群でした。その後の数週間は気力が充実して、少々のことであっても乗り越えられるようになりました。

鼻ウガイ …これはラジオで、ある歌手の話の聴き、毎日実行してきました。

小コップに塩を小匙で少々入れて、ぬるま湯で溶かす。その塩水を鼻から吸い、口から吐き出す(塩分の濃度は各自調整すること)。鼻の中は数時間消毒された状態になり、風邪の予防になります。人の鼻の穴は左右どちらか一方が詰まりやすいので、詰りやすい方から吸い込むのがいいようです。風邪の症状が続けば、さらに2~3回続けて行きます。

もちろん、風邪対策としては、風邪薬の服用や喉のウガイ、乾布摩擦もしてきました。

背中踏み …ある先輩が、うつ伏せになり、親しい方に腰の付近の上をゆっくり踏んでもらい、気持ちよさそうにしておられるのを見て、私もそれを時々家人にしてもらうことにしました。背中中の凝りをほぐし、血行をよくするのに効果があります。ただし、協力者は体重が重い人は駄目です。

以上が体のケアで特に紹介したいことですが、その他、睡眠は8時間とり、食事にも気を配り、検診は早めに受けるなども心がけてきました。幸い、血圧はほぼ正常でしたし、30代になってから便秘で困ったことはあまりありませんでした。

さて、健康に生活するには、体の健康を保つだけでは十分ではありません。次は、心のケアについて述べたいと思います。

② 心のケア

人間は体だけではなく、心も健康になることが大事です。今の時代は、心の健康がおろそかになっているのではないのでしょうか。

私は、若い時に精神的につまずいたことで、心の健康への道が開けてきました。

その道への足がかりは、幼少の時から、非合理的なものとして毛嫌いしていた仏教の教えの神髄に触れたことです。

30歳頃から、仏教関係の本をたくさん読み始めましたが、その中で特に大きな影響を受けたのは、次の2冊の本です。

1冊は、浄瑠璃寺住職の佐伯快勝^{さへき かいしょう}さんの『菩薩道』で、もう1冊は大垣市法永寺の住職小沢道雄^{おざわ どうかゆう}さんの『足なし禅師本日ただいま誕生』です。佐伯さんには、仏教の教えの合理的世界観を、小沢さんには、迷いや逆境の中でこそ人の生き方の神髄が見えてくることを教えていただきました。

以下は、2人のその本の内容の一部です。

佐伯快勝・・・「いろんな宗派、経典があるが、どれもこれもたった一つのことをいっているのだ。所詮、我という自分中心の考えを捨て去り、他のために、ちっぽけな私を離れるということにつきる。「悟りの中核になったものは無常無我と縁起の法である。あらゆる生物も物も現象も、それ自身が独立して存在するもの(我)はない。時間的にも空間的にも計りようのない多くの原因(因)と、それがそうなるための経過(縁)の数々が集まって1つの結果を生み出し、それが時々^{すがた}の相をとっているに過ぎない」。

小沢道雄・・・「昭和20年11月17日から19日にかけて、この世に残るか、あの世に往ってしまうかの境目にあった」。

日本敗戦。シベリアで抑留され、秋になり送還される列車の中に彼はいた。マイナス40度の厳寒のシベリア。両足は凍りついてしまう。

手術し切断。なんとか日本に生還した。



義足は造り直した。様々な人と出会い、いろんな経験をする。

その後、托鉢しながら西に向かい、

天城峠で野宿した。夜が空けるまでこれまでのことを思い出しながら、次のように記しておられます。「私はいつの間にか自己をも忘れ、ただ座っている自分に気がついた。俺にはもう怖いものは何もない」。

さて、私のことに戻ります。

40歳を過ぎた頃には、心身共に落ち着き、次のような心境になっていました。

「今までの自分は、自分が持つ懐中電灯で足下を照らしうろたえていたが、今からは、太陽が照らすもっと広い範囲の中で自分を見つめていこう」。仕事に就いては、「逃げるな。今壁に突き当たっていることは、自分に与えられた試練だと思え」。「できるだけ楽しんでやろう」。

以上、私の実行してきた心身の健康法について述べてきましたが、自分の意思ではなく、運によって自然に成し遂げられた健康もありました。例えば、学生時代には長距離を徒歩で通学せざるを得なかったこと、仕事に就いてからは、4~5階の階段を上り下りしなければならなかったことなどで足腰が鍛えられたといえます。しんどい、いやだと思ったことも、自分のためになっていたんですね。



海外ボランティア活動体験記-3 パラグアイ(1997.4~2002.3)

木村 裕

パラグアイ着任後の初仕事は活動基地となる住居探しですが、幸いなことに当初は日系人の経営するホテルでの生活となりました。そこでは日本語は通じ日本食も食べられ、お風呂にも入れます。それゆえ、このホテルを住処として活動を続けているボランティアもいました。



私の選んだ住処は、新築の3階建ての小型マンションで、お向かいには同僚がはいりました。間取りは、ちょっとした運動ができるようなばか広い居間兼応接間、3つの寝室(トイレ・

シャワー付き)、小さな居間、台所、洗濯室、メイド室、クローゼット(物置)で、日本の我が家の3倍くらいの広さがあり、日本の家がウサギ小屋だといわれるのがよく分かりました。外観、内装とも真っ白に塗装され、いろいろな家具、電化製品などもついており、見てくれは豪華でした。うらやましいでしょう。



しかし入居後はつぎからつぎにトラブルが続出。スペイン語での会話ができないので説明におおわらわ。幸いにも同僚の奥さん(お向かいではない)がパラグアイ出身の日系人であったので、頻繁に電話や来訪をお願いして迷惑をかけっぱなしでした。

・入居して早々に停電：装備する電化製品の容量をまったく考慮していなかったようで、たちまちブレーカの電気容量をオーバーして電気さんがへそを曲げる。

・突然応接間のみの電気がつかなくなった：原因は教えてもらえなかったが、修理は朝9時から始まって3時までかかった。

・エアコンのトラブル：エアコンは各部屋にあり、応接間と主寝室にはアメリカ製の立派な物が天井に設置されていた。しかしこのアメリカ製は見てくればかりで、冷風も温風もやっけない扇風機でした。取り外して修理となったが復旧まで2週間かかりました。さらに2か月後にも1台が故障し、2週間のお休みとなった。他の小型エアコン(台湾製?)はうるさくおしゃべりはするものの役目ははたしてくれました。寒い時期になったので暖房にしようとしたらどの機器も冷房機能しかなかったのにはおそれいました。

・換気扇の機能不全：ガス台の上に換気扇があるもののさっぱり機能しない。よく見ると、気体成分の吸着装置に過ぎず、外部へは通じていなくて、これがパラグアイ方式?? 壁に穴をあけてダクトをつけてもらったものの、吸引力が弱くて役立たず。サンマを焼いたところ煙がもうもうと室内に立ちこめ、火災警報器が鳴り、管理人がとんでくるような大騒ぎとなりました。これでも換気扇か! パラグアイではアサド(焼肉)を頻繁に行いますがすべて外でやっており、室内で肉を焼く、ましてや魚を焼くなどの発想はなく、以後、焼き魚には細心の注意を払うこととなりました。

・電球の玉切れ：入居後早々に新品のはずなのに蛍光灯のグロ球がダウン。また普通電球の口金とガラス球が外れる信じられないことが発生。パラグアイ人曰く、ブラジル製はダメで、ドイツ製が良い。

・ガス漏れ：ガスはプロパンガスでボンベは室内に置いているが入居時からガス漏れ。2か月後にも再度ガス漏れ。管理人がゴチャゴチャ修理? してくれたものの、ガス漏れは治らずガスの出が逆に悪くなってしまった。翌日修理人がやってきてゴム管を取り換えたが治らず、接続部分のパッキンが原因だと言って修復は翌日となりました。何事もすぐには解決しないのがパラグアイ方式です。

「田植え1期生」と出会った —20周年記念誌余聞

吉川 利文

それは、今春発行されたばかりの当会の20周年記念誌の編集委員長鈴木末一さんからの1通のメールがきっかけだった。

昨秋、私も記念誌の編集委員に加えられ、若者との絆をテーマとするパートの担当を命じられた。編集にとりかかったばかりのころ、「田植え1期生」を集めて座談会を開くとか、コメント集が作れないかしら、とぼんやり考えていた。そこへ鈴木さんから「1期生で、今年から小学校の教師をしている人がいる」との情報が飛び込んできた。

その人は14年前、佐保台小学校の5年生として田植えを体験した水上由賀さんで、沖縄の豊見城市の小学校で教壇に立ち、1年生のクラスを担当していた。

私は「ならやまの自然を次世代に引き継ごうという会の目標にぴったりの人物。よし、記念誌の目玉にしよう」と飛びついた。

先ず、インタビューを検討した。しかし沖縄は遠い。鈴木さんと相談のうえ、寄稿文をお願いすることにした。

間もなく届いた寄稿文は、申し分のないものだった。自分の田植えの経験を踏まえ、「私が救われたように、いま生き辛さを抱えた子ども達に少しでも自然と共生すること、大地の恵みとそこに生きる命に目を向け、思いを馳せ、次世代へ未来のバトンを渡せるように尽力していきたい」と結ばれていた。

「ウム」。寄稿文を前にして私はうなった。私たちが、ならやまで目指していることを、ズバリ言い切っている。正直、魅了された。

「一体どんな方だろう。一度お目にかかって、存分にお話ししてみたい」。そんな思いが募った。

しかし、そんなことは叶わぬことだとも思った。それが、鈴木さんの突然のメールで実現するとは…。鈴木さんのメールにはこうあった。

「佐保川小学校の1学期終業式で、青色パトロール活動について全校児童の皆さんに話をしてほしい、との要請があり、出かけました。校長室にて挨拶をすませるや否や、水上さんが入ってこられたのです。沖縄県豊見城市の学校に勤務されていたはずだと思っていましたので、びっくり仰天…。なんと4月から佐保川小学校に講師として勤務されていたのです」

鈴木さんのメールには「『縁』について」と哲学的なタイトルがあったが、私は思わず「奇遇だあ、奇跡だあ」と叫んでいた。翌日はならやまの活動日。ご存じの通り、朝礼での鈴木さんの“緊急報告”となったわけである。

なぜ、彼女はいま奈良にいるのか。これは直接聞いてみなければ。「ぜひお目にかかりたい」と、さっそく20代の彼女へ80歳の“ラブコール”。数日後、佐保川小学校内で、校長と鈴木さん立ち合いということで、念願の対談が実現。初対面。ドキドキしながら質問を“連射”。彼女が沖縄では必ずしも思うような教育ができなかったこと、自分をもっと変えないと自身が成長できないと悟り、奈良へ戻ったこと、熟考の末、日本式教育を世界に広める活動を展開するCIESF(シーセフ)という公益財団法人の小学校教諭募集に応募し、採用が決まったので、カンボジアにある、同法人が運営する小学校に赴任することになった、などがわかった。シーセフの建学の精神には「“地球益”を目指す、志を持ったリーダーを育てる」とある。水上さんはそこに共感したという。一気に情熱的に語ってくれた。

そして「私のやろうとしていることはバラバラのように見えるかもしれませんが、どれも自分の中ではつながっています。その根っこはならやまでの田植え経験です」と強調した。

ならやまの水田の愛称は「未来っ子」

と「はぐくみ」。まさに、ならやまの水田は、水上さんのような未来っ子をはぐくんだといえよう。



クリの病害虫-I (病害虫講座—46)
虫こぶは焼き栗の敵

木村 裕

栗と言えば、焼き栗、ゆで栗、マーロングラッセ、栗の甘露煮など、おいしい物いろいろありますね。

焼き栗は簡単に皮が剥けておいしいですが、すべて中国からの輸入品です。日本で栽培している栗は、粒は大きいですが皮と実がしっかりとくっついていて剥がれにくく、焼き栗に適していません。これは品種の違いからきたものです。日本でも栽培すればよいのにはと思いますが。

【クリタマバチ】

春4月ころ、山に自生している柴栗の新芽が赤く球状に膨れているのに気がつきましたか？これは新芽の中に数匹のハチの幼虫が住みついているからです。新芽が異常にふくれるため、新しい枝は正常に伸びず、花も咲かずに枯れてしまうことが多いです。

焼き栗となる天津栗は、この虫の被害をもろに受けて枯れてしまうため、日本では残念ながら栽培できません。日本でも昔はこの天津栗に近い品種が栽培の中心でしたが、このハチのまん延のため全滅し、今ではこの虫に抵抗力の強い品種に変わっています。



7月頃に成虫のハチとなって飛び出し、来年年用芽の中に産卵し、やがてふ化した幼虫は芽の中で徐々に成長するのですが被害は外観上まっ

たく分かりません。そのまま芽の中で越冬し、翌春、虫こぶをつくって一気に大きく成長します。

【クスサン】

青白色の長い毛が密生した大きな毛虫が葉を暴食します。小さなころは真っ黒な毛虫でかたまっていますが、毛が白くなるころにバラバラに分かれます。昔はクリの毛虫の代表でしたが、最近はなぜか少なくなり、あまりお目にかかりません。

【胴枯れ病】

樹が大きくなり、これから実がたくさん穫れると皮算用をはじいた頃に発生する病気で、中心となる太い枝が枯れ、やがて樹全体が枯れ始めます。恐ろしい病気で、有効な対策はありません。

【クリノオオアブラムシ】

黒色の大きなアブラムシが新芽、枝、幹に群生して汁を吸います。



卵で越冬するため、冬に樹幹表面に黒色の卵が数百個かたまって着いているのがときどき見られます。またこの虫はクヌギ、生垣のアラカシやウバメガシでもしばしば発生します。



幹に産まれた卵の集団

新ならやま投句箱

俳句

夏野菜^{むしろ}筵を敷いて揃い踏み

羽尻 嵩

ツバメの子古都のヨシ原ネグライり

富江 文雄

かなどこに入道雲やにわか化け

八木 順一

地の間に仄かに白し夏椿

古川 祐司

二十種百万株百日紅は競い咲き

阿部 和生

滝落ちぬ我ら忘我のひと時を

中井 弘

野菜達蒸し蒸しするなど草を刈る

鈴木 末一

コノハズク

木景木菟^{コノハズク}ブツポウソウと高野の夜

豊田 浩代

宮跡の草の穂かすめ夏ツバメ

藤原 勲

手のひらのカマキリ愛でる得意顔

千載 輝重

鈴虫の音庭からも重なりており

小島 武雄

雲の峰語りし友の訃報知る

笠井 文夫

ヤマセミにスコップざわめくダム湖の午後

高岡 祥子

酷天を隠す高野の杉並木

山本 美智子

短歌

五十年化石燃料楽しんだ

我の車は世界の不幸

戸田 博子

キャンプするわざわざ不便をする不思議

戦争を知る老女^{ひと}のつぶやき

青木 幸子

川柳

義歯外し次は目玉と孫が請い

トラ吉

代用食をライスカレーと昭和の子

祐司

ならやまの風を感じてペダル踏む

ゼンちゃん

NOONの声琴の音に変える雷様

のぶ

君も又身体検査すり抜けり

順一

読めるけど書けない漢字また一つ

≡ボギー

新ならやま投句箱への投句ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

行事案内



自然教室チームだより

初秋の歌姫街道自然観察会のご案内

富江 文雄

令和4年9月初旬、平城宮跡の北側、佐紀古墳群と呼ばれる古墳や御陵の間を歩き、初秋の自然観察会を行います。

今回も大阪自然史博物館友の会副会長の田代先生にご案内いただきます。

一帯は開発が規制された里山が一面に広がる古き良き時代の日常を感じさせる風景が見られ、お堀の水性植物にも出合えることでしょう。

9月に入ったとはいえ、まだ暑さが残っている時期ですので、今回も午前中のみとなります。

また、新型コロナ対策としてマスク着用を励行してください。

雨天時の実施有無は、これまで通り前日午後7時前 NHK 天気予報で奈良県北部地方の降水確率60%以上の場合は中止とします。

予備日は設けません。

記

日時：令和4年9月12日(月)午前9時

集合：近鉄京都線平城駅 駅前

(普通しか停まりません)

持ち物：飲み物、暑さ対策、あればルーペ

観察ルート：平城駅—佐紀石塚山古墳—

瓢箪山古墳—塩塚古墳—歌姫集落

—磐之媛命陵(いわのひめのみこと)

—水上池北側 (ここで解散)

(西大寺駅へは徒歩約15分)

担当：富江文雄

山本美智子



イベントのご案内

わくわく！ドキドキ！お山を歩こう！

富井 忠雄

今回のイベントは、佐保台小学校の放課後子ども教室としても位置付けられており、募集対象は佐保台小学校児童と当会会員の関係者としています。

内容は、今春に実施した「わくわくドキドキお山を歩こう①」に準じています。

新型コロナウイルス感染予防のため午前中の開催とし、感染症対策など行いながら実施いたします。

皆さま(スタッフ)のご協力よろしく願いたします。

実施要項

1. 日時：9月17日(土)

9時30分～12時30分(受付9時～)

前日19時前のNHKの天気予報で奈良県北部の降水確率50%以上の場合は9月24日(土)に延期

2. 募集人数：小学生と保護者合わせて50名

3. 場所：ならやまベースキャンプ

4. ならやまの里山と観察路を歩き観察、体験、里山の話などを聞き自然に親しみ理解を深める。

5. 準備：手袋、長袖、長ズボン、運動靴、ヘルメット(当会にもあります)

6. 申込日：9月1日より

富井忠雄



仲間入りしました

金田(かなた) 香代子

私は高校の同窓会が立ち上げた「至誠歩こう会」(登山)で知り合った藤原さんから“ならやま”での活動を何度か聞き、楽しそうだなと思って参加させていただきました。農作業は初めてでしたが、皆さまが優しく親切で、草引きやジャガイモ掘りなど大変でしたが、楽しく過ごすことができました。早速入会させていただきました、毎週、大阪藤井寺市から電車で通うのを楽しみにしています。あまりお役に立たないですがよろしくをお願いします。

赤トンボ

菊川 年明

秋は赤トンボの季節です。広い意味では赤いトンボはすべて赤トンボですが、トンボの分類上ではアカネ属のトンボだけを指します。名前は〇〇アカネというものが多く、アカネは茜色を意味します。ただし例外があってナニワトンボというトンボはアカネ属なのに青色です。

代表的な赤トンボはアキアカネとナツアカネです。アキアカネは初夏に平地の池などで羽化しますが、直ぐに山地へ旅立ち、盛夏を涼しい高原で過ごし、秋半ばに平地に降りてきます。

ナツアカネは名前のおり夏に現われますが晩秋まで見られます。秋にはオスは目も含めて全身が真っ赤になります。

ならやまで見られる赤トンボは8種です。

アキアカネ

ナツアカネ



奈良学クイズ

《問1》

本堂は「試みの〇〇〇」と呼ばれ、〇〇〇の10分の1の規模で、天平の高僧の創建によるといわれています。花の寺といわれるようにしたいと考えられて、10年以上かけ50種類ほどの蓮の花が育てられています。その中に、高僧の名前がついた蓮もあります。



(明治~大正ごろの本堂)

この寺の正式名称について、次の[]に当てはまる漢字をお答えください。

[] [] 宗 [] [] 本山 [] [] []

《問2》

この高僧の名前をお答えください。

《問3》

歌姫の歴史について歌姫町文書研究会の有志の方たちによる研究成果として、「歌姫春秋」が刊行されています。1724(享保9)年甲辰8月の五カ村絵図には、歌姫村、山陵村、常福寺村、超昇寺村、門外村が描かれています。

次の中で、超昇寺村と最も所縁のある人物名をお答えください。

- ① 棚田嘉十郎 ② 溝辺文四郎 ③ 河辺隆光
- ④ 関野貞 ⑤ 北浦定政

【応募要領】

締切日：9月6日(火)

記念品：竹細工?

2022年8月度 幹事会報告

日時：7月26日(火) 14:00~16:20

I.はじめに

- ・最近、活動中の怪我が多い。特にチェーンソー、草刈機など動力機器使用は要注意。高齢化していることも自覚して、より慎重な活動を。
- ・7/21 奈良県景観自然環境課 古都管理係長 来訪。視察いただくとともに諸課題について意見交換を行った。

II. 会計、総務部より

- ・会員動向：153名(1名入会1名退会)
- ・会計報告：収支報告あり

III. 活動・行事関係

- ・タナゴ生育には西池の一部に水深1m以上の個所があることが望ましい。今後検討する。
- ・イベント
 - ・8/27 夏だ！休みだ！お山で遊ぼう ②
昆虫観察に替えて水生生物観察
 - ・9/17 わくわくドキドキお山を歩こう②
 - ・子ども用ヘルメット 購入予定

IV. 企画、助成金事業案件

- ・各種助成金事業は順調に進捗している
- ・新たな助成案件については現在の助成事業の完遂を見極めたうえで改めて企画検討する

V. 喫緊、提案事項

- ・クビアカツヤカミキリの桜、桃、梅への侵入有無を8月中に総点検予定
(彩りの森-景観・実りの森-果樹・観察路-パト・その他-里山G)
- ・土日活動について、目的を再確認し、どのような形であれば実現可能か検討する
(実施は11月頃からか?)

VI. 広報関係

- ・9月号編成内容確認

VII. 報告、連絡事項、その他

- ・月例研修会：8月1-2日高野山一泊研修
- ・自然教室：8月8日ツバメの罅入り

次回 8/30(火) 14:00~奈良市中部公民館



暗証番号

パソコンやスマホを使っているとパスワード(暗証番号)を設定しなければならないことがある。

思いつくのは、名前(自分・孫・ペット・・・) 誕生日・記念日・電話番号・キーボードの配列順・・・などだが、どれもこれもすぐにはれてしまう最悪の危険単語だそうだ。でも普通の人間にとって意味のない記号を考えるのはとても難しい。考え過ぎると銀行のATMの前で、あれっ? 何だっけ? なんてことになるかも。

話変わって、我が家は玄関の鍵を開ける前に、共用のエントランスの鍵(暗証番号)を開ける必要がある。当然自分が考えた番号ではない。今のところ問題なく過ごしているが、さてこれから先、歳を重ねてチョットおかしくなったら無事に玄関までたどり着けるだろうか? セキュリティがしっかりしているのはいいけれど、本人が閉め出されることがあるかも?? そしてこの番号もいつまでも同じではない。

郵便物も他の人が開けられないようにここにも暗証番号が・・・。

10月ならやま活動&行事予告

- * ならやま活動(木)6日 協働活動日
- * 10/16 朝日親と子の自然環境教室
予備日 10/23(日)
- * 10/17 自然観察会 馬見丘陵
- * 10/29 芋掘りイベント 予備日 11/5(土)

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 e-mail: editor@naranature.com

編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎・

千載・田中(善)・戸田・豊田・増田

表紙写真：炎天下での野菜の収穫と畑の除草をした後、涼しい木陰で一休みしています。